＜「命を守る」防災教育推進事業＞

防災教育実践事例集Ⅰ

令和４年３月

岐阜県教育委員会　学校支援課

目　次

1　はじめに	1頁
2　教科等における実践に向けて	1頁
3　小学校・中学校における防災教育に関係する学習内容等	2頁
4　実践事例集の見方	3～4頁
5　小学校　第4学年　理科　「雨水の行方と地面の様子」	5～6頁
6　小学校　第4学年　社会　「自然災害から人々を守る活動」	7～8頁
7　小学校　第5学年　社会　「我が国の国土の自然環境と国民生活との関連～自然災害への対応～」	9～10 頁
8　小学校　第5学年　体育　「けがの防止」	11～12 頁
9　小学校　第5学年　家庭　「快適な住まい方」	13～14 頁
10　小学校　第5学年　特別の教科　道徳【C】14　勤労，公共の精神	15～16 頁
11　中学校　第2学年　理科　「電流とその利用～電流と磁界～」	17～18 頁
12　中学校　第2学年　社会　「日本の地域的特色と地域区分　～自然環境からみる東北地方～」	19～20 頁
13　中学校　第2学年　保健体育　「傷害の防止」	21～22 頁
14　中学校　第2学年　技術・家庭（家庭分野）「生活を豊かにするための布を用いた製作」	23～24 頁
15　中学校　第1学年　特別の教科　道徳【C】12　社会参画，公共の精神	25～26 頁
16　特別の教科　道徳　説話集（被災地でのエピソード）	27～32 頁
17　参考資料	33 頁

１　はじめに

岐阜県教育委員会では，令和２年度より学校の防災教育をリードする専門性の高い教員集団「岐阜県防災教育強化チーム」を組織し，「命を守る」防災教育の普及・啓発に努めています。令和２年度は，「『体系的・系統的な防災教育』の充実に向けた指導資料」を作成し，県内の各小・中学校等に配信しました。

令和３年度は，「『体系的・系統的な防災教育』の充実に向けた指導資料」に基づいて，「岐阜県防災教育強化チーム」の委員が防災教育を通して育成したい資質・能力を明確にし，他の教育活動や家庭・地域と連携を図った授業を行いました。そして，その実践について強化チームで検討し，本資料に取りまとめました。本資料が，各学校の教科等における防災教育の充実を図る上で参考となることを願っています。

平成２４年度，私は宮城県の小学校で一年間勤務しました。その学校では震災を経験された多くの先生方と一緒になり，先生方から震災当時の様子やその時の経験などいくつかの話を聞きました。先生方はその時の体験から，子どもたちに様々な視点をもって命を守るためにできることを伝えてみえ，私自身も学ばせていただきました。その土地の歴史や先人の言動，言い伝えを知ること，自然現象や地域の特徴について学ぶこと等，多くの体験や学びを積み重ねることは，日頃の防災意識を高めることにつながると考えます。子どもたちの命を守る意識と行動力をより高めることができるよう，私たちは多くの体験や実践を積み重ね続けたいものです。そして，これからの予測困難で不透明な未来を生きる子どもたちが，自分で将来を切り拓くことのできる力（自立力）を身に付けていくことを願っています。

岐阜県防災教育強化チーム委員　郡上市立大和西小学校　校長　猪俣　哲夫

２　教科等における実践に向けて

学習指導要領の改訂によって，教科を通じた学びと教科連携による学び（カリキュラム・マネジメント）によって「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」といった三つの柱に基づく学びを後押しし，「生きる力」を育むということが示されています。また，学ぶ内容として，防災・安全教育をはじめとした社会で生きていくための力に直結する教育の充実が指向されています。

このような，社会につながる内容を教科の中で実践するのは難しいと考える先生方もおられるかもしれませんが，実は，あらゆる事は教科での学びに直結しています。「岐阜県防災教育強化チーム」での対話の中で出てきた例を少しご紹介しますと，被災地での人と人との関わりに関するエピソードの多くは道徳や国語に直結していますし，被災後の衣食住の話は家庭科に直結しています。台風，洪水，土砂災害，地震などの自然災害発生メカニズムやそれに伴う事象は理科，地形の特性とそれによる災害との関連，地域の中での助け合いなどは社会科に直結しています。災害の被害の概数や軽減のための対策の効果を考えることは算数，数学の知識や技能が不可欠ですし，防災対策のためのリスクコミュニケーションは，数学的な論理的思考や，相手に正しく伝える国語力が欠かせません。ご自身の担当教科との関係が少しイメージできたでしょうか。

本防災教育強化チームにおける対話の中で，多くの気付きがありました。もし，これから防災教育に取り組まれる際に，どんな切り口から考えたらよいかイメージできない場合には，我々，「岐阜県防災教育強化チーム」のメンバーに相談してもらえればと思います。一人で考えるより，三人寄れば文殊の知恵，きっと，考え方のヒントが見つかると思います。

岐阜県防災教育強化チーム委員　岐阜大学流域圏科学研究センター　准教授　小山　真紀

3　小学校・中学校における防災教育に関係する学習内容等

小 1・2・3年生	4年生	5年生	6年生	中 1年生	2年生	3年生
生活科 **学校，家庭及び地域の生活に関する内容** ・学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達，通学路の様子やその安全を守っている人々などについて学ぶ。 ・地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について学ぶ。 **身近な人々，社会及び自然と関わる活動に関する内容** ・公共物や公共施設，それらを支えている人々について学ぶ。	**社会** **自然災害から人々を守る活動** ・地域や関係機関や人々は，自然災害に対し，様々な協力をして対処してきたことや，今後想定される災害に対し，様々な備えをしていることを学ぶ。	**社会** **我が国の国土の自然環境と国民生活との関連** ・自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや，自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを学ぶ。	**社会** **自然災害からの復旧や復興** ・国や地方公共団体の政治として，自然災害からの復旧や復興の取組を学ぶ。		**社会（地理的分野）** **日本の地域的特色と地域区分** ・我が国の地形や気候と関連する自然災害と防災への取組について学ぶ。 **地域調査の手法** **日本の諸地域**	
	理科 **雨水の行方と地面の様子** ・雨水が川へと流れ込むことに触れることで，自然災害との関連を学ぶ。	**理科** **流れる水の働きと土地の変化** ・長雨や集中豪雨がもたらす川の増水による自然災害を学ぶ。 **天気の変化** ・長雨や集中豪雨，台風などの気象情報から，自然災害を学ぶ。	**理科** **土地のつくりと変化** ・火山の噴火や地震がもたらす自然災害を学ぶ。	**理科** **大地の成り立ちと変化** ・自然がもたらす恵み及び火山災害と地震災害を，火山活動や地震発生の仕組みと関連付けて学ぶ。	**理科** **気象とその変化** ・気象現象がもたらす恵みと気象災害を，天気の変化や日本の気象と関連付けて学ぶ。	**理科** **自然と人間** ・地域の自然災害について，総合的に調べ，自然と人間との関わり方について学ぶ。
		体育 **けがの防止** ・けがの起こり方とその防止，けがの悪化を防ぐための簡単な手当などを学ぶ。			**保健体育** **傷害の防止** ・自然災害による傷害は，災害発生時だけでなく，二次災害によっても生じること等を学ぶ。 **技術・家庭科** **住居の機能と安全な住まい方** ・自然災害に備えた住空間の整え方を学ぶ。	

特別の教科 道徳

［生命の尊さ］
・生きることのすばらしさを知り，生命を大切にすること。（1・2年）
・生命の尊さを知り，生命あるものを大切にすること。（3・4年）
・生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し，生命を尊重すること。（5・6年）

［節度，節制］［親切，思いやり］［勤労，公共の精神］

特別の教科 道徳

［生命の尊さ］
・生命の尊さについて，その連続性や有限性なども含めて理解し，かけがえのない生命を尊重すること。

［節度，節制］［思いやり，感謝］［社会参画，公共の精神］［勤労］

＊本資料は，小・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編「防災を含む安全に関する教育（現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容）」を参考に作成しています。

4　実践事例集の見方

（1）指導案

5　小学校　第４学年　理科　「雨水の行方と地面の様子」

1　本時のねらい（２・３／５時）

・雨水が地面を流れていく様子から，雨水の流れ方に着目して，雨水の流れる方向と地面の傾きとを関係付けて，降った雨の流れの行方を調べる活動を通して，水は高い場所から低い場所へと流れて集まることを理解することができる。

2　評価規準

・水は，高い場所から低い場所へと流れて集まることを理解してい

3　防災教育の充実に向けて

（１）防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

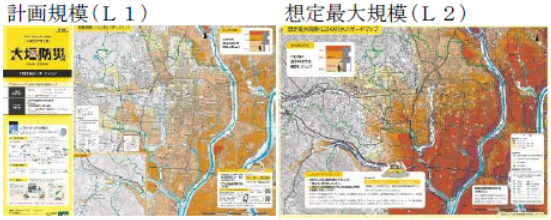
	内
防災教育を通して育成したい資質・能力	知識及び技能 様々な自然災害等の危険性，安全で安心 活を実現するために必要な知識や技能
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	・自治体が公表しているハザードマッ ・排水の仕組みを確認する。

（２）教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	内
教科等横断的な視点	情報活用能力 一人一台端末を活用して，浸水を防ぐ 域のハザードマップについての情報を
家庭や地域との連携	地域の浸水区域の情報を保護者と共有

4　学習展開

過程	主な活動
問題の設定 予想や仮説の設定 検証計画の立案 観察，実験の実施 結果の処理 考察 まとめ	・雨の日の運動場の様子を写真で確認する。 いつも同じ場所に水たまりができるのはどうしてだろうか。 ・地面の傾きと水の流れる向きの関係を予想する。 ・ビー玉を使って，いつも水たまりができる場所の地面の傾きを調べる。 ・ビー玉が転がった向きをまとめる。 （絵や写真への矢印の書き込み等） ・ビー玉の転がった向きから地面の傾きを考え，水の流れる向きとの関係を考察する。 ・水は，高い場所から低い場所へと流れて集まることをまとめる。 ・排水の仕組みを確認する。 ・ハザードマップから，学校や自宅周辺の浸水区域を知る。 計画規模（Ｌ１）　想定最大規模（Ｌ２） ・大雨が降ると学校の東側が浸水することが分かりました。 ・私の家の近くでも大雨が降ると浸水する危険な場所があることが分かりました。 出典：大垣市洪水ハザードマップ ・水害が起きた場合，どういう所に避難するとよいのかを考える。



・校種，学年，教科等，単元・題材名を記載しています。
・単元・題材名は，学習指導要領に基づいて記載しています。

・教科等におけるねらい・評価規準を記載しています。

・防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえ，本時のねらいに基づいて実践の具体を明らかにしています。

・カリキュラム・マネジメントを推進する観点から，教科等横断的な視点（特別の教科　道徳については「他の教育活動との関連」），家庭や地域との具体的な連携の方法について記載しています。

・特に防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた内容を太枠で囲んでいます。

（2）実践のまとめ

・教科等における防災教育とのつながりが分かるように，タイトルを記載しています。

理科

「排水の仕組み」及び「ハザードマップ」を取り上げ，災害を自分事として捉える学習

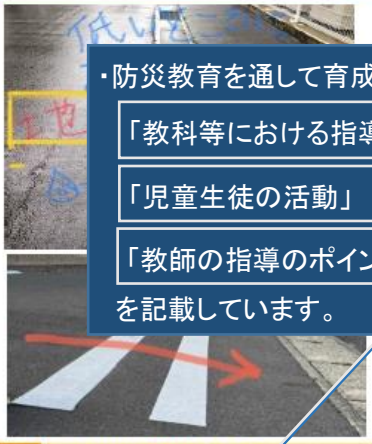
第4学年　雨水の行方と地面の様子

・実践の中で見られた児童生徒の姿を記載しています。

こんな子どもたちの姿が生まれました！

・排水の仕組みや地域の浸水区域を確認することで，水が高い場所から低い場所へと流れて集まることについての理解が深まり，自然災害に対する危機意識が高まりました。

「排水の仕組み」を取り上げたことによる効果



校庭内にある駐車場が少し斜めに

降ったときに水がたまらないようにするために，少し斜めにして低い場所に排水溝を作ったのだと思います。

・防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた

「教科等における指導の在り方・指導方法」

「児童生徒の活動」

「教師の指導のポイント」

を記載しています。

理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高めることができるようにする。

・大雨が降ったときに校舎の周辺で浸水する可能性がある場所，浸水を防ぐための工夫を考える。

・浸水を防ぐために，自宅周辺やよく訪れる地域ではどのような工夫がされているのかを調べる。

教師の指導のポイント

・児童にとって身近な場所に目を向けさせることで，水は高い場所から低い場所へと流れて集まることを利用して，水による災害を防ぐ工夫がされていることに気付くことができるようにする。

「ハザードマップ」を取り上げたことによる効果

出典：大垣市洪水ハザードマップ

私の家の近くでも，大雨が降ると浸水する危険な場所があることが分かりました。浸水しそうになったら，北の方のこの辺りに逃げると安全だと分かったので，家族に話してみようと思います。

「理科の見方・考え方」を，日常生活などにおける問題発見・解決の場面で働かせることができるようにする。

・自宅周辺やよく訪れる地域のハザードマップを，一人一台端末を活用して確認する。

・ハザードマップで浸水する可能性が高い場所を確認する。

・河川が氾濫したときに，どういう所に避難するとよいのかを考える。

・ハザードマップに示されている浸水区域まで行き，その場所の様子や地面の傾きなどを確認する。

教師の指導のポイント

・児童一人一人が災害を自分事として捉え，より安全な避難について考えることができるようにハザードマップを取り上げる。なお，ハザードマップを取り上げる際には，「児童同士
に配慮する。

・実践の具体的な様子が分かるように，児童生徒の発言と写真を掲載しています。

５　小学校　第４学年　理科　「雨水の行方と地面の様子」

１　本時のねらい（２・３／５時）

・雨水が地面を流れていく様子から，雨水の流れ方に着目して，雨水の流れる方向と地面の傾きとを関係付けて，降った雨の流れの行方を調べる活動を通して，水は高い場所から低い場所へと流れて集まることを理解することができる。

２　評価規準

・水は，高い場所から低い場所へと流れて集まることを理解している。（知識・技能）

３　防災教育の充実に向けて

（１）防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	内容
防災教育を通して育成したい資質・能力	知識及び技能 様々な自然災害等の危険性，安全で安心な社会づくりの意義を理解し，安全な生活を実現するために必要な知識や技能を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	・自治体が公表しているハザードマップを用いて，地域の浸水区域を確認する。 ・排水の仕組みを確認する。

（２）教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	内容
教科等横断的な視点	情報活用能力 一人一台端末を活用して，浸水を防ぐための工夫及び自宅周辺やよく訪れる地域のハザードマップについての情報を収集する。
家庭や地域との連携	地域の浸水区域の情報を保護者と共有する。

４　学習展開

過程	主な活動
問題の設定 予想や仮説の設定 検証計画の立案 観察，実験の実施 結果の処理 考察 まとめ	・雨の日の運動場の様子を写真で確認する。 いつも同じ場所に水たまりができるのはどうしてだろうか。 ・地面の傾きと水の流れる向きの関係を予想する。 ・ビー玉を使って，いつも水たまりができる場所の地面の傾きを調べる。 ・ビー玉が転がった向きをまとめる。 （絵や写真への矢印の書き込み等） ・ビー玉の転がった向きから地面の傾きを考え，水の流れる向きとの関係を考察する。 ・水は，高い場所から低い場所へと流れて集まることをまとめる。 ・排水の仕組みを確認する。 ・ハザードマップから，学校や自宅周辺の浸水区域を知る。 計画規模（Ｌ１） 想定最大規模（Ｌ２） ・大雨が降ると学校の東側が浸水することが分かりました。 ・私の家の近くでも大雨が降ると浸水する危険な場所があることが分かりました。 出典：大垣市洪水ハザードマップ ・水害が起きた場合，どういう所に避難するとよいのかを考える。

理科

「排水の仕組み」及び「ハザードマップ」を取り上げ，災害を自分事として捉える学習

第4学年　**雨水の行方と地面の様子**

こんな子どもたちの姿が生まれました！

・排水の仕組みや地域の浸水区域を確認することで，水が高い場所から低い場所へと流れて集まることについての理解が深まり，自然災害に対する危機意識が高まりました。

「排水の仕組み」を取り上げたことによる効果

校舎の近くにある駐車場が少し斜めになっていて，一番低い場所に排水溝があります。大雨が降ったときに，私たちが歩く場所に水たまりができないように工夫してあることが分かりました。

私の家の近くも，よく見ると，家の前の道路や駐車場が少しだけ斜めになっていました。学校の駐車場が斜めになっていたのと同じで，大雨が降ったときに水がたまらないようにするために，少し斜めにして低い場所に排水溝を作ったのだと思います。

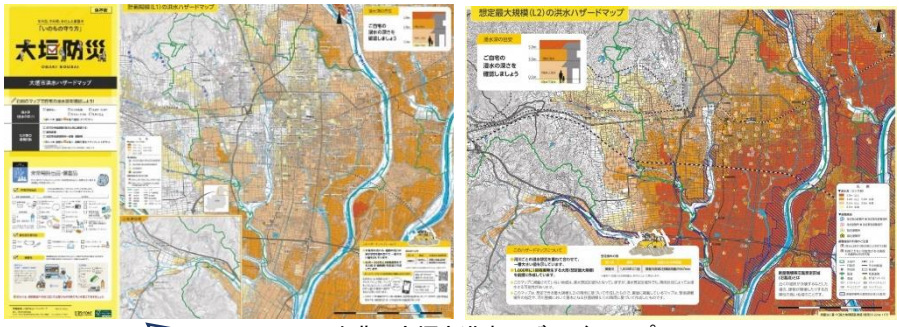
理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高めることができるようにする。

・大雨が降ったときに校舎の周辺で浸水する可能性がある場所，浸水を防ぐための工夫を考える。
・浸水を防ぐために，自宅周辺やよく訪れる地域ではどのような工夫がされているのかを調べる。

教師の指導のポイント

・児童にとって身近な場所に目を向けさせることで，水は高い場所から低い場所へと流れて集まることを利用して，水による災害を防ぐ工夫がされていることに気付くことができるようにする。

「ハザードマップ」を取り上げたことによる効果



出典：大垣市洪水ハザードマップ

私の家の近くでも，大雨が降ると浸水する危険な場所があることが分かりました。浸水しそうになったら，北の方のこの辺りに逃げると安全だと分かったので，家族に話してみようと思います。

「理科の見方・考え方」を，日常生活などにおける問題発見・解決の場面で働かせることができるようにする。

・自宅周辺やよく訪れる地域のハザードマップを，一人一台端末を活用して確認する。
・ハザードマップで浸水する可能性が高い場所を確認する。
・河川が氾濫したときに，どういう所に避難するとよいのかを考える。
・ハザードマップに示されている浸水区域まで行き，その場所の様子や地面の傾きなどを確認する。

教師の指導のポイント

・児童一人一人が災害を自分事として捉え，より安全な避難について考えることができるようにハザードマップを取り上げる。なお，ハザードマップを取り上げる際には，「児童同士による自宅の土地の高さ比べ」とならないように配慮する。

６　小学校　第４学年　社会　「自然災害から人々を守る活動」

１　本時のねらい（１０・１１／１１時）

・いずれ来る可能性の高い大地震への備えについて，学習してきたことと関連付けて考えることを通して，防災意識を普段からもち家族や地域の方との協力の大切さに気付き，今の自分が優先してすべき関わり方を選択し，生活に生かそうとすることができる。

２　評価規準

・地震災害への備えについての関わり方を，自分の生活を見つめながら，既習の内容を基に決め出そうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

３　防災教育の充実に向けて

（１）防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	内容
防災教育を通して育成したい資質・能力	学びに向かう力，人間性等 防災に関する様々な課題に関心をもち，主体的に自他の安全な生活を実現しようとしたり，安全で安心な社会づくりに貢献しようとしたりする態度を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	県内の地震をはじめとする様々な自然災害とその被害を防ぐ取組を基に，自分たちの防災への取組の現状を知り，身近な自然災害の被害について見つめ直す。

（２）教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	内容
教科等横断的な視点	情報活用能力 一人一台端末を活用して，地震災害への様々な備え方を調べる。
家庭や地域との連携	親子アンケートの実施や地震への備え方等，地震災害に関する話題を提供し，家庭での話合いを促す。

４　学習展開

過程	主な活動
課題の設定	いずれ来る大きな地震からの被害を減らすために，大切なことは何だろう。
既習内容の想起 追究	・単元で学習してきた，それぞれの立場（家庭・地域・県や市）からの対処や備えを確認する。 ・それぞれの立場から，被害を減らすために大切にするとよいことを，インターネットを活用して収集した資料や既習の内容を基に考える。
全体交流	・自分の家でも非常食や水を備える。 ・家の家具にＬ字金具を取り付けて倒れてこないようにする。 ・防災訓練の災害体験活動に参加する。 ・助け合うために，地域でどんな人が住んでいるかの確認が大切。 ・防災倉庫の中に備えられている非常食で対応できそうな日数を知らせておくことが大切。 ＊全体交流では，児童の発言を黒板に分類・整理する。
まとめ	・取組のキーワード（自分がすること・家の人に促すこと・地域と協力すること）を決める。 ＊ゲストティーチャー（防災課等，防災に携わる方）の話を聞く。 ・親子アンケートとキーワードを見比べながら，自分にとって必然性のある減災のための取組を決め出す。 ・家庭で自分や家族が決めた取組について話し合う。

社会

自然災害による被害を減らすための自分の行動を決め出す学習

第4学年　自然災害から人々を守る活動

こんな子どもたちの姿が生まれました！

・地震災害の被害を減らすための取組について考えることで，防災についての関心が高まり，家庭や地域で防災につなぐ取組を実践する姿が増えました。

地震災害の被害を減らすための取組について考えることによる効果①

「災害の被害はゼロにはできない」けれど，地域や県が被災を減らす様々な取組を行っていることが分かりました。ハザードマップが配られているので，家でも家族と見てみることが大切だと思います。

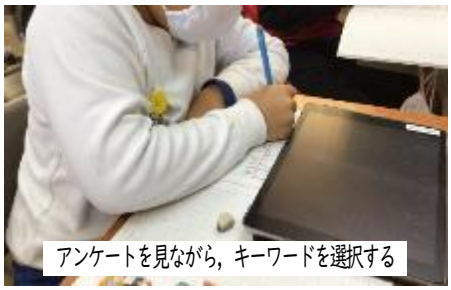
単元の学習をもとに，様々な立場から多角的に考えることができるようにする。

・災害の被害を減らすために大切にすることを，「家庭」「地域」「県や市」の立場から考える。
・既習の内容やタブレット端末を活用して調べた内容など，根拠を明確にして考える。
・板書から取組のキーワードを考える。（自分がすること・家の人に促すこと・地域と協力すること）

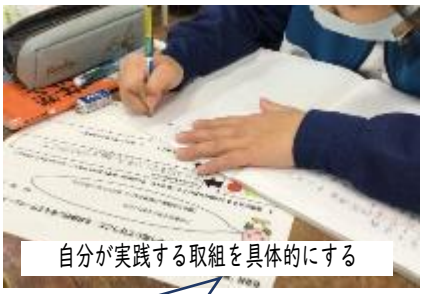
教師の指導のポイント

・児童の意見を，立場に応じて分類・整理しながら板書に位置付ける。また，取組のキーワード（自分がすること・家の人に促すこと・地域に協力すること）ごとに色分けをして分かりやすく示す。

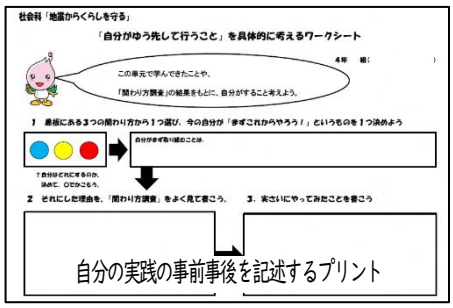
地震災害の被害を減らすための取組について考えることによる効果②



アンケートを見ながら，キーワードを選択する



自分が実践する取組を具体的にする


社会科「地震からくらしを守る」
「自分がゆう先して行うこと」を具体的に考えるワークシート
この単元で学んできたことや，
「関わり方調査」の結果をもとに，自分がすること考えよう。
1　最初にあるさつの関わり方から１つ選び，今の自分が「まずこれからやろう！」というものを１つ決めよう
自分がまず取り組むこと。
↑自分はどれにするのか，決めて，ひだりにかこもう。
2　それにした理由を，「関わり方調査」をよく見て書こう。
3．実さいにやってみたことを書こう

自分の実践の事前事後を記述するプリント

私は，「自分でできること」を大切にしたいです。近所に住んでいる人がどんな人か分からないので，家の外で出会った人に進んで挨拶をして，災害がもし起きたときに協力できるようにしたいです。

社会に見られる課題に対して，自分の関わり方を選択・判断する際，根拠を明確にすることで，必然性をもち主体的に実践できるようにする。

・災害に対する取組について，事前に親子アンケートを実施する。
・親子アンケートを見ながら，授業の前半で決めた取組のキーワードの中の１つを選択する。
・決めたキーワードについて，自分が実践する取組を，具体的にする。（近所に住んでいる人を知らないので，挨拶をして災害の時に協力できるようにするなど）

教師の指導のポイント

・事前に防災について，「自分でできることをしていますか」「家の人と一緒にできることをしていますか」「地域と協力していますか」といった内容で，親子アンケートを実施する。
・決めた取組を自分や親子で実践し，自主学習等にまとめるよう促し，防災意識を高めることができるようにする。

7　小学校　第５学年　社会　「我が国の国土の自然環境と国民生活との関連～自然災害への対応～」

１　本時のねらい（６／６時）

・様々な自然災害と国土との関わりや，防災の取組を振り返ることを通して，国や都道府県，市町村が防災・減災の取組を多く行っていることに気付き，自分たちにもできることはないか具体的に考えることができる。

２　評価規準

・自分たちにも実践することが可能な防災や減災の取組について考えることができている。
（思考・判断・表現）

３　防災教育の充実に向けて

（１）防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	内容
防災教育を通して育成したい資質・能力	思考力，判断力，表現力等 自らの安全の状況を適切に評価するとともに，必要な情報を収集し，安全な生活を実現するために何が必要かを考え，適切に意思決定し，行動するために必要な力を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	「公助」についてまとめていく中で，「自助」「共助」の必要性に気付き，自分や家族，地域で実践可能な取組について考える。

（２）教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	内容
教科等横断的な視点	情報活用能力 一人一台端末を活用して，様々な「自助」「共助」の実践を調べる。
家庭や地域との連携	・取組の内容について保護者と共有する。 ・防災倉庫の見学や防災用品を使う体験的活動を行う。(総合的な学習の時間等)

４　学習展開

過程	主な活動
課題の設定	○様々な自然災害が起きたときの，国や市町村の取組について知る。 ・国や市町村の取組は分かったけれど，自分たちにも何かできないだろうか。
追究	自分たちにも実践可能な取組には，どんなものがあるだろうか。 ○自分たちにも実践可能な取組について考える。 「自助」 ・家庭の防災グッズを確認する。 ・家具などの固定をする。 ・家族の避難場所を決める。 ・避難場所への経路を確かめる。 「共助」 ・近所の要支援者について知る。 ・地域の防災訓練に参加する。 ・避難誘導や炊き出しなどを手伝う。 ・防災用品を使う体験をする。
全体交流	○地域の事例を調べたり，防災倉庫の見学から感じたりしたことを交流する。 （ハザードマップなどを活用する） ・この地域は古くから土砂災害が多く発生している。 ・学校の近くの川は大雨であふれたことがあると聞いた。 ・地域の避難所や防災倉庫がどこにあるか知っておいたほうがよさそうだ。 ・大雨の季節は夏（梅雨）と秋（台風）が多いから，その時期に合わせた防災グッズを用意しておいたほうがよいと思う。
深めの考察	○「共助」のための普段の取組について考える。 ・近所の人に積極的に挨拶をしていけば，自然と仲良くなるのではないか。 ・地域の行事に参加し，どこにどんな人が住んでいるのかを把握するとよい。 ・通学路や家の周りなどの状況を注意して観察しておくと，変化に気付きやすい。
まとめ	○実践可能な取組について自分の考えをまとめる。 ○【家庭学習】家庭での防災対策について調べまとめる。

社会

「自助」「共助」の意識の醸成を図る学習

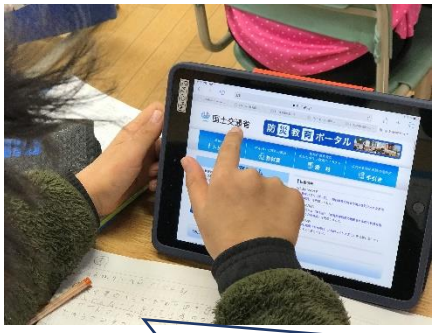
第5学年

我が国の国土の自然環境と国民生活との関連
～自然災害への対応～

こんな子どもたちの姿が生まれました！

・自然災害時における「自助」「共助」「公助」について学ぶことを通して，自分や家族，地域を自分たちで守るという意識が高まりました。

様々な自然災害及び「公助」の取組を調べたことによる効果



日本は山が多い地形なので，大雨の時などは土砂災害の危険性が高いことが分かりました。雨がよく降るのは梅雨と台風の時期だから，その時期には特に自然災害に気を付ける必要があることが分かりました。

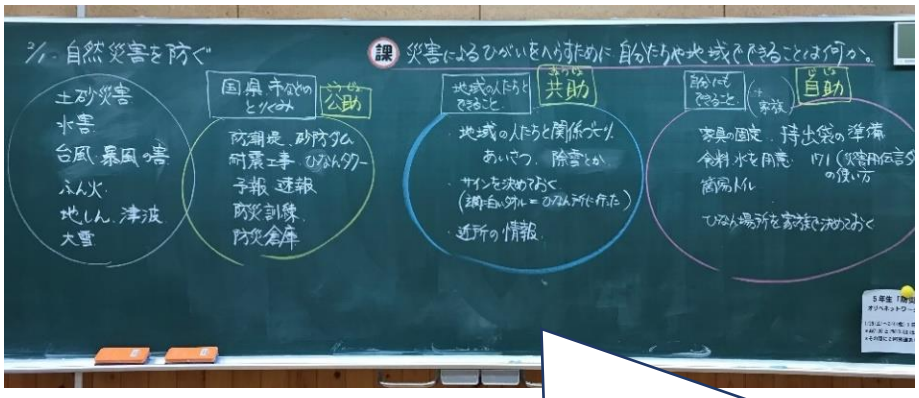
「社会科の見方・考え方」を，日常生活などにおける問題発見・解決の場面で働かせることができるようにする。

・様々な自然災害が起きたときの国や市町村の取組（公助）について知る。
・地域で起きた自然災害の事例を調べたり，防災倉庫の見学から感じたりしたことを交流する。

教師の指導のポイント

・地域で起きた自然災害の事例を調べる際には，自然災害の特徴と地域の地形等の特徴を関連付けて捉えるように指導する。

「自助」「共助」の取組を考えたことによる効果



地形に着目することで，地域に合った取組を考えることができました。
日常的に近所の方とコミュニケーションをとり，家族構成や在宅状況などを知っておくことが大切だと分かりました。

日常生活と社会科の学習との関連を見つけること，社会科の学習を通してくらしを見つめることができるようにする。

・日本で起きやすい自然災害の種類や時期などの知識を基に，自分や家族，地域においてできる取組を考える。
・【家庭学習】家庭での防災対策ついて調べまとめる。

教師の指導のポイント

・自分や家族，地域においてできる取組を考える際には，実践可能な取組を具体的に考えるよう指導する。

８　小学校　第５学年　体育　「けがの防止」

１　本時のねらい（３／４時）

・学校や地域でけがを防ぐためには，決まりを守るとともに，安全な行動をとることや，環境を安全に整えておくことが大切であることを理解することができる。

２　評価規準

・学校や地域でけがを防ぐためには，どうすればよいのか理解している。（知識・技能）

３　防災教育の充実に向けて

（１）防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	内容
防災教育を通して育成したい資質・能力	知識及び技能 様々な自然災害等の危険性，安全で安心な社会づくりの意義を理解し，安全な生活を実現するために必要な知識や技能を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	自然災害による被害の様子について知り，地域のハザードマップを活用して，自然災害が起きたときの対処や日頃の防災について考える。

（２）教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	内容
教科等横断的な視点	問題発見・解決 社会科「自然災害への対応」の学習と関連付けて，身近な自然災害や地域のハザードマップを調べ，問題に対処するための方法などについて考える。
家庭や地域との連携	地域の避難場所や危険箇所の情報を保護者と共有する。

４　学習展開

過程	主な活動
つかむ 調べる	自然災害が起きたときに，安全な行動をするためには，どうすればよいか。 ＊社会科「自然災害への対応」の学習と関連付けて実施。 ・身近な自然災害や地域のハザードマップを調べる。 ・ハザードマップで危険箇所や避難場所を確認する。 ・自然災害が起きたときの対処や日頃の防災について考える。
まとめる 深める	・地域の避難場所を実際に確認する。 自宅から避難場所までの移動時間や危険箇所を調べる。 出典：岐阜市地震ハザードマップ　日光地区 ・自分の家の近くの避難場所が分かりました。 ・洪水のときは近くの避難場所は使えないことが分かり，早めの避難の大切さを知りました。 ・急な災害に備え，どこに避難するか家族で話し合っておこうと思います。 ・【家庭学習】地域の避難場所や危険箇所の情報を家族と共有し，自然災害が起きたときの対処や日頃の防災などについて話し合う。

体育

「ハザードマップ」の活用による
災害が起きたときの対処の仕方等の学習

第5学年　けがの防止（発展）

こんな子どもたちの姿が生まれました！

・地域の指定緊急避難場所に行き，現地の様子や自分の家からの避難時間を確認することで，防災への理解が深まり，自然災害に対する危機意識が高まりました。

ハザードマップの活用による効果

出典：岐阜市地震ハザードマップ日光地区

一番近くの避難場所はどこにあるか確認し，家からどのくらいかかるか調べました。いつ，どこで，どのような状況で災害が起こるか分からないので，どこに避難するかを家族で相談しておくことが必要だと思いました。

出典：岐阜市洪水ハザードマップ日光地区

早田地区は，近くに長良川があります。氾濫したら近くの避難場所は浸水するため避難できません。そのようなことが起こる場合に備え，どの建物に避難するのかを家族で相談しておくことが必要だと分かりました。

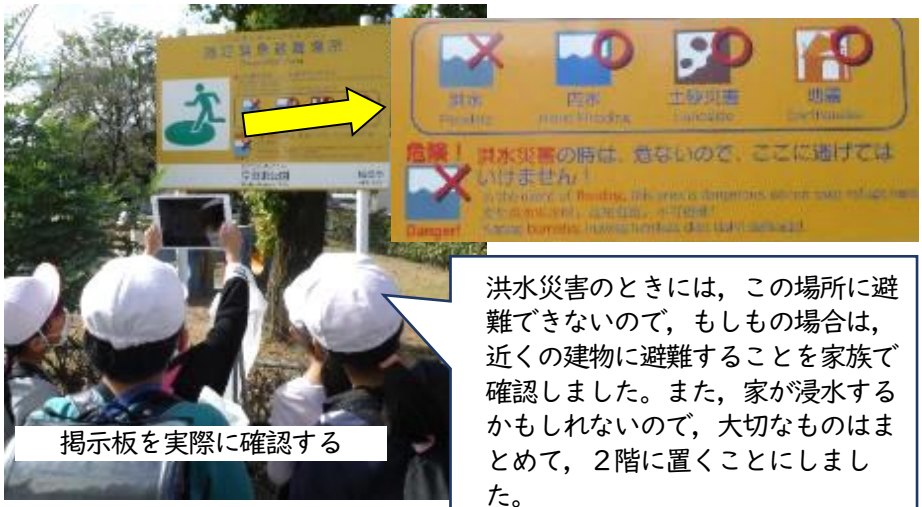
地震や台風などの自然災害による被害の様子について知り，自然災害が起きたときの対処の仕方や日頃の防災などについて考えさせる。

・社会科の学習と関連させ，身近な自然災害について調べる。
・調べたことを班や全体で交流し，自分たちの地域で起きたらどうすべきかを話し合う。
・地震や洪水，内水の場合では，被害の状況が全く違うことを理解し，避難の仕方について考える。
・家族で話し合い，いざというときに困らないようにする。

教師の指導のポイント

・社会科の時間と関連付けて，活動時間を効果的に確保する。
・近くの川があふれて浸水被害に遭う可能性があることを取り上げ，日頃から自然災害に備えておくことの大切さを学ぶことができるようにする。

指定緊急避難場所の確認による効果



掲示板を実際に確認する

洪水災害のときには，この場所に避難できないので，もしもの場合は，近くの建物に避難することを家族で確認しました。また，家が浸水するかもしれないので，大切なものはまとめて，２階に置くことにしました。

保健を学ぶことの意義を実感するとともに，学校や地域でのけがの防止に対する関心を高めることができるようにする。

・ハザードマップを確認した上で，実際に避難場所に行き，現地の様子を把握する。
・実際に歩いて，危険箇所はないか，家からどれくらい避難に時間がかかるかを確認する。
・学校で調べたり，話し合ったりしたことを保護者に伝え，家族で話し合う。家族で話し合ったことを学級で交流する。

教師の指導のポイント

・学年通信等で学習した内容を保護者に伝え，家族で防災意識を高めていけるようにする。また，家族で話し合った内容を交流することで，仲間から学んだことを自分の実践に生かすことができるようにする。

９　小学校　第５学年　家庭　「快適な住まい方」

１　本時のねらい（２・３／７時）

・引き出しの中を整理・整頓する活動を通して，整理・整頓の必要性が分かり，それらの適切な仕方を理解することができる。

２　評価規準

・住まいの整理・整頓の仕方を理解しているとともに，適切にできる。（知識・技能）

３　防災教育の充実に向けて

（１）防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	内容
防災教育を通して育成したい資質・能力	知識及び技能 様々な自然災害等の危険性，安全で安心な社会づくりの意義を理解し，安全な生活を実現するために必要な知識や技能を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	自然災害時に役立つ整理・整頓の仕方を確認する。

（２）教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	内容
教科等横断的な視点	情報活用能力 一人一台端末を活用して，災害時に役立つ整理・整頓の仕方の情報を収集する。
家庭や地域との連携	自然災害時に役立つ整理・整頓の仕方の情報を家族と共有する。

４　学習展開

過程	主な活動
生活の課題発見 解決方法の検討と計画	使いやすく，取り出しやすい安全な整理・整頓の仕方を考えよう。 ・引き出しの写真を見て，整理・整頓の必要性を知る。 ・整理・整頓の手順を知る。各自，整理・整頓前の引き出しの中の写真を撮り，整理・整頓をする。
課題解決に向けた実践活動	・必要な物と必要でない物を分ける。（整理） ・使用頻度・使う目的・大きさや形・重さ・色などで分類し，置き場所を決める。（整頓） ・整理・整頓の工夫について交流し，まとめる。
実践活動の評価・改善	・自然災害時に役立つ整理・整頓の仕方を知る。 教科書等を使用して，地震時に役立つ整理・整頓のポイントを確認する。 ・地震が起こったときに物が落ちてこないように，重い物は下の方に置くとよいことが分かりました。 ・戸の開け閉めができるように，戸の付近に荷物は置かない方がよいことが分かりました。 ・非常用持ち出し袋はすぐ持ち出せるように，すぐ手に取れる決まった場所に置くとよいことが分かりました。
家庭・地域での実践	・【家庭学習】家庭において自然災害時に役立つ整理・整頓の仕方を確認する。

家庭

安全に避難できるようにするという視点からの「整理・整頓」の学習

第5学年　快適な住まい方

こんな子どもたちの姿が生まれました！

・引き出しの中の整理・整頓の実践を通して，整理・整頓の大切さと日頃の整理・整頓が地震時の防災につながることを理解することができました。

整理・整頓の実践の効果①

・はさみは，刃でけがをしないようにカバーを付ける。
・筆箱は，手前の取り出しやすい所に置く。

取り出しやすくするためには，整理をして，よく使うものは手前にあまり使わないものは奥に置くとよいことが分かりました。のりやはさみなどは動くから，動きにくい場所に置くことを工夫しました。まとめておくとすぐ取り出せて便利だと分かりました。

「生活の営みに係る見方・考え方」を，日常生活などにおける課題発見・解決の場面で働かせることができるようにする。

・引き出しの中の写真を見て，「使いやすい・取り出しやすい・安全に使用できる」という視点から考察する。
・自分の引き出しの中を整理した後，使用頻度や大きさなどで整頓する。
・使いやすく，取り出しやすく，安全に使用できるか確認する。

教師の指導のポイント

・「使いやすい，取り出しやすい，安全に使用できる」という視点から整理・整頓の大切さを理解できるようにする。

整理・整頓の実践の効果②

地震のときは，安全に避難ができるように，避難する経路に物を置かないことや非常用持ち出し袋は，家族がすぐに持ち出せるように玄関の横に置くとよいことが分かりました。

教科書等を使用して，親子で防災についての備えを点検している様子

非常用持ち出し袋の中身を確認し，設置場所を検討したときの様子

家庭での実践を通して，生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を高めることができるようにする。

・教科書等*を使用して，防災についての備え（地震が起きたときに落ちてきそうな物はないか，避難経路に物を置いていないか，非常用持ち出し袋はすぐ出せる場所に置いてあるか）を確認する。
＊本実践では東京書籍「新しい家庭５・６」５２頁の「日々の備え」を使用した。

教師の指導のポイント

・家庭における実践を促す際には，児童の家庭環境に配慮した上で，防災についての備えを家族と確認するよう働きかける。また，問題点が見つかった場合は，家族と相談し，できる限り改善するよう働きかける。

１０　小学校　第５学年　特別の教科 道徳　【Ｃ】 14 勤労，公共の精神
主題名「働く喜び」
教材名「サタデーグループ」（日本文教出版）

１　本時のねらい
・地域のために活動することで，多くの人の役に立っていることに気付き，進んで自分たちの住む地域に奉仕しようとする心情を育てる。

２　評価の視点
・地域のための活動を，一つの視点ではなく多様な角度から捉えて深く考えようとしている。

３　防災教育の充実に向けて
（１）防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	内容
防災教育を通して育成したい資質・能力	学びに向かう力，人間性等 防災に関する様々な課題に関心をもち，主体的に自他の安全な生活を実現しようとしたり，安全で安心な社会づくりに貢献しようとしたりする態度を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	道徳的価値に関わらせながら，震災時の避難所における子どもたちの奉仕活動の様子を聞き，自分の考えや思いを話したり書いたりする。

（２）他の教育活動との関連及び家庭や地域との連携

	内容
他の教育活動との関連	委員会活動や係活動で，自分の責任や役割を自覚し，全校のために主体的に活動する。
家庭や地域との連携	震災当時の様子を家族などに聞いたり，防災の話を家庭で話題にしたりする。

４　学習展開

過程	主な活動
導入	1　主題についての感じ方や考え方を意識する。 〇地域のために，どんなことをしていますか。
展開前段	2　教材を読んで，公共の精神について話し合う。 〇公園のごみ拾いを，自分からやろうと思うか。その理由は何か。 ◎「わたしたち」は，どんな気持ちから毎週公園そうじを続けたのだろう。 〇「わたしたち」の行いは，誰の役に立っているのか考えよう。 〇校長先生の話を聞いて，どんなことを感じたのだろう。
展開後段	3　避難所でのエピソードを聞き，感じたことを交流する。 震災後，ある小学校が避難所になった。限界に近い精神状態の避難者の間でトラブルが生まれる中，避難所では役割分担をして，避難した人々が働けるようにした。その中で，子どもたちの働きぶりは避難所の人々を勇気付けた。一人一人の働きが，復興に向かって頑張ろうとする前向きな気持ちを生んだ。誰でも，地域の人のために自分ができることをすることで，避難所などでも多くの人の役に立つことができる。 4　自分自身の生き方を振り返る。 私は，花いっぱい運動などは，はじめはいやいや参加することもあったけれど，みんなと一緒に花を植えたらとても気持ちがよくなりました。震災があったときに，小学生が地域のために活動をしていることを知って，地域のために何かすることは大切だと思いました。これからも，地域の役に立てるように自分から進んで行事に参加したいと思いました。 5　振り返りの観点をもとに，自己の学びを評価する。
終末	6　教師の説話を聞く。

特別の教科
道徳

「勤労，公共の精神」の実践意欲を高める
避難所エピソードを活用した学習

第5学年

主題名「働く喜び」
教材名「サタデーグループ」（日本文教出版）

こんな子どもたちの姿が生まれました！

・避難所における子どもたちの活動を知ることで，地域の中で自分たちができることを，より多角的に深く考えることができるようになりました。

避難所エピソードの活用による効果

お年寄りや赤ちゃん，家族連れなどいろいろな人が使う公園は，自分たちも使うから，自分たちの手できれいにしたい。そうすることで，自分たちもみんなも気持ちよくなれる。

避難所で生活している小学生が，役割分担をして避難所のために働いたそうです。その働きぶりが，避難所の人々を勇気付けました。避難所でも，自分たちのできることで，多くの人の役に立つことができるのですね。

私は，花いっぱい運動のときは，自分たちが住んでいる町がきれいになるといいな，みんなが暮らしやすいところになるといいな，という気持ちでやっています。今日，東日本大震災のときも一生懸命やっていた子がいたと聞いてびっくりしました。地域のために自分の役割を果たして，前向きに考えているところがすごいと思いました。

教材を通した学びに加えて，道徳的価値に関わる，東日本大震災での避難所のエピソードを聞くことで，より自己の生き方についての考えを深めることができるようにする。

・事前に東日本大震災の当時の状況を把握する。
・公園の掃除を進んでやろうと思えない弱い気持ちについて考える。
・公園の掃除を続ける「わたしたち」の気持ちを考える。
・「わたしたち」の行いが誰の役に立っているかを具体的に考える。
・仲間の意見の根拠や意味を自分なりに考え，隣同士で交流する。
・東日本大震災のエピソードを，オンライン会議システムを活用して経験者から聞くことで，道徳的価値について多角的に考える。
・東日本大震災のエピソードを聞いてどう感じたのかを話し合う。
・道徳的価値を基に振り返った自分の経験や心情，さらに，東日本大震災のエピソードを聞いて感じたことを道徳ノートに書く。

＊東日本大震災のエピソードについては，本実践事例集 27 頁「特別の教科 道徳 説話集（被災地でのエピソード）」の１を授業者が紹介してもよい。

教師の指導のポイント

・教材で学習した場面だけでなく，避難生活をおくる際など様々な場面で本時学んだ道徳的価値が生きることを実感できるようにする。
・命を守る訓練や地域の防災活動等において，道徳的価値とつなげた指導を意図的・計画的に行う。

１１　中学校　第２学年　理科　「電流とその利用～電流と磁界～」

１　本時のねらい（１／１５時）

・非常用持ち出し品の一つである手動発電ライトの分解・観察を通して，コイルと磁石に着目しながら発電の仕組みを科学的に探究することができる。

２　評価規準

・電流と磁界に関する事物・現象に進んで関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

３　防災教育の充実に向けて

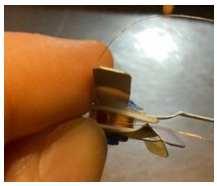
（１）防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	内容
防災教育を通して育成したい資質・能力	学びに向かう力，人間性等 防災に関する様々な課題に関心をもち，主体的に自他の安全な生活を実現しようとしたり，安全で安心な社会づくりに貢献しようとしたりする態度を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	非常用持ち出し品の一つである手動発電ライトの仕組みを調べる。

（２）教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	内容
教科等横断的な視点	問題発見・解決能力 技術・家庭（技術分野）…生活や社会を支えるエネルギー変換の技術 （家庭分野）…住居の機能と安全な住まい方
家庭や地域との連携	通信等を活用して，各家庭に非常持ち出し品等の検討や確認を働きかける。

４　学習展開

過程	主な活動
課題の設定	・写真などを見て，自然災害時の状況や避難した場面を想起する。 ・非常用持ち出しバッグの中身を全体で確認する。 手動発電ライトの内部は，どのような仕組みになっているのだろうか。
予想や仮説の設定	・手動発電ライトの内部を予想する。
観察，実験の実施 結果の処理 考察	・手動発電ライトを分解し，内部の仕組みについて発見したことを整理する。 ＜手動発電ライトの内部＞ コイル　磁石　ＬＥＤ　手動発電ライト  ・電池はなく，導線がぐるぐる巻きになっているものと磁石がありました。鉄のくぎが引き寄せられたので，磁石で間違いありません。 ・ぐるぐる巻きの導線と LED がつながっていました。 ・動かさないと LED は点灯しないので，「ぐるぐる巻きの導線」「磁石」「動き」がそろうと発電すると考えました。
まとめ	・手動発電ライトの内部の仕組みについて，発見したことを全体で交流する。 ・【家庭学習】各家庭で非常用持ち出し品を確認し，手動発電ライトがあるかを確認する。

理科

非常用持ち出し品「手動発電ライト」を活用した学習

第2学年

電流とその利用
～電流と磁界～

こんな子どもたちの姿が生まれました！

・非常用持ち出し品の確認や手動発電ライトの仕組みを科学的に探究することを通して，防災に対する意識を高めることができました。

非常用持ち出し品を活用して高まる防災意識①

非常用持ち出し品の確認

地震や河川の氾濫などが起きたとき，私たちも避難所で生活をすることがあるかもしれない。でも，自分の家の非常用持ち出しバックの中身を確認したことはないです。「水」や「非常食」などの他に，一体何が入っているのだろうか。

日常生活や社会との関連を図ることで，問題を見いだし，新たな視点で自然の事物・現象と関わらせて考えることができるようにする。

・地震や洪水などの災害や避難所での生活の様子を知る。
・地震や津波，河川の氾濫による洪水といった災害時にとるべき行動を考える。
・非常用持ち出しバックが家に常備されているか確認する。
・非常用持ち出しバッグの中身を予想し，その後確認する。

教師の指導のポイント

・大型モニターなどを活用し，地震や洪水などの災害や避難所での生活の様子を提示することで，自然災害時の状況をイメージできるようにする。被災した生徒がいる場合は，提示方法や内容について十分に配慮する。

非常用持ち出し品を活用して高まる防災意識②

手動発電ライトの仕組みを予想する

手動発電ライトを実際に分解し，観察する

内部の様子を調べ，科学的に探究する

「磁石」や「導線が何重にも巻かれたコイル」があり，歯車を動かすことで発電できるから，電池がなくても非常用のライトとして繰り返し活用できることが分かりました。

理科で学習する原理や法則が日常生活や社会と深く関わりがあることを捉えることができるようにする。

・手動発電ライトを実際に分解し，使われている「磁石」「コイル」などの部品から，発電の仕組みを考える。
・非常用持ち出し品として，手動発電ライトが優れている点を考える。
・【家庭学習】各家庭において，非常用持ち出し品を確認する。

教師の指導のポイント

・自然災害との関連を図りながら学習内容の理解を深めることにより，理科を学ぶことの意義や有用性を認識できるようにする。

１２　中学校　第２学年　社会　「日本の地域的特色と地域区分～自然環境からみる東北地方～」

１　本時のねらい（４／５時）

・何度も地震や津波の被害を受けている東北地方で，どのように過去の教訓を生かそうとしているのかを調べる活動を通して，震災の記憶が伝承され引き継がれていることや，道路や堤防の強化，住宅地の高台移転だけでなく，一人一人の防災意識を高める取組が進められていることを理解することができる。

２　評価規準

・東北地方では，震災の記憶が伝承され引き継がれており，それを生かした一人一人の防災意識を高める取組が進められていることを理解している。（知識・技能）

３　防災教育の充実に向けて

（１）防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	内容
防災教育を通して育成したい資質・能力	知識及び技能 様々な自然災害等の危険性，安全で安心な社会づくりの意義を理解し，安全な生活を実現するために必要な知識や技能を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	自治体が公表している過去の浸水実績図を用いて，地域の浸水区域を確認する。

（２）教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	内容
教科等横断的な視点	情報活用能力 一人一台端末などを活用して，地域の過去の被災情報を収集する。
家庭や地域との連携	地域の浸水区域の情報を家族と共有する。

４　学習展開

過程	主な活動
課題の設定	東北地方では，過去の災害の教訓をどのように生かそうとしているのだろうか。
予想	・東北地方でどのように震災の教訓を生かそうとしているか予想する。
追究	・資料を読み取り調べる。
全体交流	・調べた事実を交流する。 石碑に「ここより下に家を建てるな」と刻むことで，津波の被害から将来の世代を守ろうと教訓を伝えている。 方言に「津波」という言葉を付けて，「津波てんでんこ」という言葉をつくり，津波から一人一人で逃げるという教訓を伝えている。 岩手県の「津波伝承まちづくりガイドライン」では，インフラ整備に加え，震災の記憶を伝えることで，災害に強いまちをつくろうとしている。
まとめ	・調べた事実に共通することに着目して考え，災害の教訓をどのように生かしているかまとめる。 ・津波の被害が繰り返される三陸海岸沿いの地域では，石碑や言葉を残すなどの工夫をして，震災の記憶を忘れないようにしていることが分かりました。 ・防潮堤や堤防，高台の移転などの物理的に災害に強いまちづくりをするだけでなく，住民が震災の記憶を受け継ぎ，防災意識を高めることが，震災に強いまちづくりにつながることが分かりました。 ・岐阜県の公式ＨＰから「過去の主な浸水実績」を調べ，私たちの住む地域でも災害の記憶を受け継いで，住民の防災意識を高めようとしていることに気付く。

社会

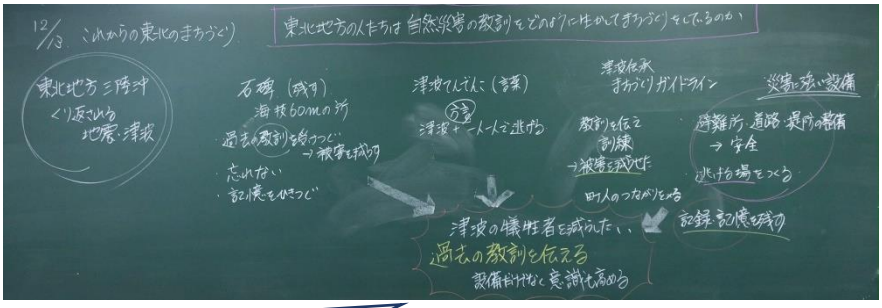
自然災害の教訓や記憶の継承について考え，防災意識の向上を図る学習

第2学年　日本の地域的特色と地域区分
～自然環境からみる東北地方～

こんな子どもたちの姿が生まれました！

・東北地方で過去の災害の教訓を伝承している事実を知ることで，自然災害の記憶を受け継ぐことが防災意識を高めることにつながることを理解することができました。

自然災害の教訓をどのように生かそうとしているかについて考えることによる効果①



東北地方は，過去の経験を生かして防潮堤の整備などにより災害に強いまちづくりをしていると思っていました。しかし，それだけではなく，教訓を記録・記憶に残し一人一人の自然災害に対する意識をより高めることによって災害に強いまちをつくっていこうとしていることを知りました。

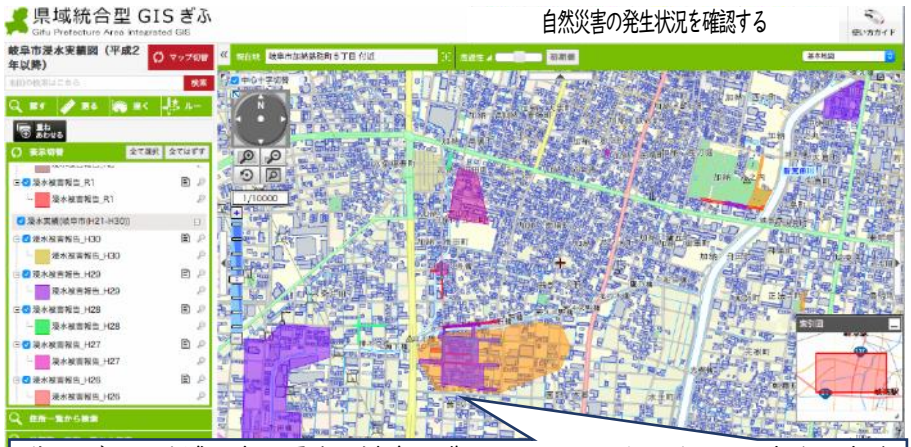
「社会科の見方・考え方」を，日常生活などにおける問題発見・解決の場面で働かせることができるようにする。

・その土地ならではの地理的特徴によって，起こりうる自然災害が異なることを理解する。
・震災の教訓を生かす人々の営みの共通点に着目し，自然災害が繰り返し起こってきた地域だからこそ，記憶を継承し住民の防災意識を高めていることに気付く。

教師の指導のポイント

・地域には過去に起きた津波，洪水，火山災害，土砂災害等の自然災害の情報を伝える石碑やモニュメントなどの自然災害伝承碑が残されている。そこで，生徒の意識や住んでいる地域の状況に応じて取り上げるものを選択する。

自然災害の教訓をどのように生かそうとしているかについて考えることによる効果②



住んでいる地域の中に浸水の被害に遭ったところがありました。自分の自然災害への意識の低さを改めて感じました。私たちにとって，自然災害は他人事ではないと思いました。

社会科で学んだことを自分事として捉え，学ぶことの意義や有用性の実感を高めることができるようにする。

・自宅周辺やよく訪れる地域の災害時の浸水状況などを，一人一台端末を活用して確認する。
・自然災害が発生した土地には，どのような地理的特徴があるのか考える。
・調べた浸水区域の情報を家族や地域の方に伝えるとともに，過去の自然災害の様子について話を聞く。

教師の指導のポイント

・地理的分野「地域の在り方」において，過去の地形図と比較して地域の自然災害への備えについて調査する活動を位置付けるなど，関連付けて実施する。また，ＤＩＧなどの防災に係る活動，地区に働きかける生徒会活動との関連を図り，防災意識のさらなる向上を目指す。

１３　中学校　第２学年　保健体育　「傷害の防止」

１　本時のねらい（５／７時）

・自然災害による傷害を防止するためには，日頃から災害時の安全の確保に備えておく必要があることを理解する。

２　評価規準

・自然災害時の安全への備えについて理解している。（知識・技能）

３　防災教育の充実に向けて

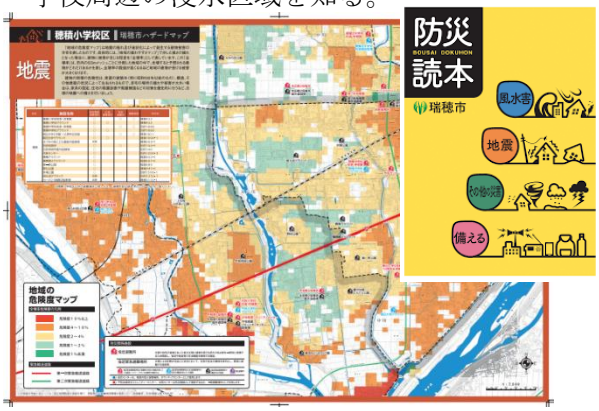
（１）防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	内容
防災教育を通して育成したい資質・能力	知識及び技能 様々な自然災害等の危険性，安全で安心な社会づくりの意義を理解し，安全な生活を実現するために必要な知識や技能を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	自治体が公表している防災読本を用いて，地域の浸水区域を確認する。 １日のスケジュールから避難に必要な物資を確認する。

（２）教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	内容
教科等横断的な視点	情報活用能力 地域の防災読本を活用して，地域の浸水区域の情報等を収集する。
家庭や地域との連携	地域の浸水区域の情報や備蓄の在り方を家族と共有する。

４　学習展開

過程	主な活動
つかむ 調べる 深める まとめる	自然災害(地震)への対応と備えについて学習しよう。 ・地震に備えて何を準備しておけばよいのか考える。 ・地震の後，二次災害として水害が発生することを想定して，市が作成している防災読本を活用し，浸水箇所や避難場所を調べる。 ・1日のスケジュールから，具体的に必要な物資を出し合う。 ・避難袋の中身を見直し，準備しておくとよい物について小グループで交流する。 ・学校周辺の浸水区域を知る。  ・家の周辺はすべて３ｍ以上浸水することが分かりました。 ・地震の避難場所は知っていたけれど，水害があったときの避難場所は知りませんでした。 ・避難袋に必要なものを入れておき，災害に備えたいと思いました。 出典：瑞穂市防災読本 ・【家庭学習】避難場所の確認や避難袋の見直しを家族と一緒に行う。

保健
体育

地域の「防災読本」の活用により，防災意識を高める学習

第2学年 | 傷害の防止

こんな子どもたちの姿が生まれました！

・地域の浸水区域や避難場所などを確かめることで，自然災害への備えの必要性を実感し、避難袋の中身を見直すなど，防災意識が高まりました。

防災読本の活用による効果①

防災読本で地域を調べる

避難できる場所を確認する

自然災害（特に水害）が起きた場合，地震とは違う避難場所を想定しておかなければならないことに気付きました。ハザードマップを見ると，避難する場所はかなり限られていることが分かりました。

保健体育を学ぶ意義や有用性を実感するとともに，保健体育（特に保健分野）への関心を高めることができるようにする。

・自分たちの通っている学校や暮らしている住まいに目を向ける。
・自然災害（特に水害）が起きた場合に備えた準備や，災害が起きた後の生活がどうなるかを考える。
・防災読本で浸水する地域や水位を確認する。

教師の指導のポイント

・通学中，学校での授業中，自宅で過ごしているときなど，様々な場面を示して自然災害が発生した際の状況について考えさせる。
・浸水した際の避難の仕方について，地震や火災のときの避難と比較して考えさせる。

防災読本の活用による効果②

避難袋の中身を再考する

実際に自分の生活を可視化する

自分の家にも多少の備蓄や避難用の物資がありましたが，それでは不十分だと分かりました。実際の自分の生活を見つめて考えると，新たに必要なものが明らかになりました。

「保健の見方・考え方」を，日常生活などにおける問題発見・解決の場面で働かせることができるようにする。

・１日の生活をプリントに書き出し，それぞれの場面で何が必要になるかを考える。
・数日避難することを想定して，避難袋に入れておくとよい物資等を考える。家族が必要とするものについても考慮する。
・再考した避難袋の中身を家族と確認する。

教師の指導のポイント

・自分の考えた避難袋の中身で，実際に１日の生活ができるかをタイムスケジュールに沿って考えさせる。
・学習内容を生かして家庭で避難袋を再点検するなど，家庭との連携を図る。

１４　中学校　第２学年　技術・家庭（家庭分野）　「生活を豊かにするための布を用いた製作」

１　本時のねらい（２／１０時）

・日常でも災害時でも役立つ「防災ポーチ」にするためには，中に入れる小物は何がよいか，また，その小物をどのように収納するとよいか考えることが大切であることに気付き，仲間との対話を通して，生活を豊かにする防災ポーチの製作計画を工夫することができる。

２　評価規準

・生活を豊かにする「防災ポーチ」にするためには，何をどのように収納するとよいか考え工夫している。（思考・判断・表現）

３　防災教育の充実に向けて

（１）防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	内容
防災教育を通して育成したい資質・能力	思考力，判断力，表現力等 自らの安全の状況を適切に評価するとともに，必要な情報を収集し，安全な生活を実現するために何が必要かを考え，適切に意思決定し，行動するために必要な力を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	防災ポーチ製作に当たって，帰宅困難になった自分を想定し，その際に必要なものは何か，またどのように収納するとよいか考え計画を立てる。

（２）教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	内容
教科等横断的な視点	情報活用能力 ファイル共有システムを利用して，防災ポーチに入れる小物を仲間と交流する。
家庭や地域との連携	防災ポーチ製作後に，家族にプレゼンをする。

４　学習展開

過程	主な活動
生活の課題発見	・前時に考えた防災ポーチ製作への願いを交流する。 ・大型商業施設で帰宅困難になったという条件設定を知り，課題につなげる。 何をどのように収納すると，生活を豊かにする「防災ポーチ」になるのだろう。
解決方法の検討と計画 課題解決に向けた実践活動	・自分の考えを持つ。 ①何を入れるか。 【視点】健康，安全，家族，感染症，その他 ②どのように入れるか。 【視点】ポケットの幅 ポケットの深さ 付属品の有無
実践活動の評価・改善	・自分の考えを仲間と交流する。 ・計画を見直す。 ・学んだことをまとめる。
家庭・地域での実践	よりよい防災ポーチにするには，自分の生活に合わせた小物選びが大切だと思った。仲間と交流することで，自分では思いつかなかった「健康」の視点も考えることができた。また，ポケットの幅や高さを工夫することで，小物が取り出しやすくなり，さらに便利なポーチになることが分かった。次回，ポケットを作るので，気に入ったポーチに仕上げるためにも，家の余った端切れでかわいい布がないか探してきたいと思う。

技術・家庭
（家庭分野）

災害時に役立つ「防災ポーチ」の製作を通して防災意識を高める学習

第2学年　生活を豊かにするための布を用いた製作

こんな子どもたちの姿が生まれました！

・災害時に役立つ「防災ポーチ」の製作を通して，日頃から自分の生活に合わせた備えをすることが，防災を考える際に大切であることを実感することができました。

「防災ポーチ」製作を通して高まる防災意識①

条件設定

ある日，あなたは友達３人とショッピングモールに買い物に行きました。ショッピングモールに着いたのは午後１時で，文房具や本を買って楽しく過ごしました。そろそろ帰ろうと話しながら，フードコートでアイスを食べていた午後４時の出来事です。震度６強の地震が起きました。揺れは数分で収まりましたが，椅子や机は倒れ，窓ガラスにはヒビが入りました。周りはかなりざわついています。すると館内放送が入り，安全を確保するために，その場で一時待機をするように言われました。どうやら，その日に自宅に帰ることはできないかもしれない状況（帰宅困難）のようです。

わたしは，普段ハンカチとティッシュしか持ち歩いていない。この設定を聞いて，日頃から備えをしておくことが必要だと感じた。授業を通して，自分に必要なものを考えていきたい。

技術・家庭科（家庭分野）の目標にある「生活の中から問題を見いだして，課題を設定する」ことができるようにする。

・条件設定から，日頃からどのような備えが必要か考える。
・自分に必要な「防災ポーチ」に入れる小物を考える。

教師の指導のポイント

・防災ポーチの製作に必然性をもたせるため，生活アンケートを参考に，より生徒にとって身近で現実的な条件設定を行う。
・「震度６強」「窓ガラスにはヒビが入る」「帰宅困難になる」に関しては，専門機関に相談した上で設定している。

「防災ポーチ」製作を通して高まる防災意識②

ＩＣＴ機器を活用した生徒交流の様子

14	生徒A	ガーゼ		安全
		ポールペン	○	その他
		テーピング		安全
		はさみ	○	その他
		メモ帳	○	その他
		ばんそうこう	○	安全
		マスク	○	感染
		カイロ	○	その他
		ハンカチ	○	安全
		懐中電灯		安全

24	生徒B	ティッシュ	○	健康
		絆創膏	○	健康
		ポールペン	○	その他
		マスク		感染
		メモ帳	○	その他
		ウェットティッシュ	○	健康
		カイロ		その他
		ハンドクリーム	○	健康
		ミニライト		安全
		ビニール袋		その他

生徒A：私は，健康の視点がなかったな。Ｂさんは，健康の視点で何を入れるのかな。

生徒B：私は乾燥肌だから，ハンドクリームがないと手が荒れて痛くなるから入れるよ。

生徒A：なるほど！私は頭が痛くなることがあるから，頭痛薬があるといいな！

ICT機器を活用し，多くの仲間と効果的に対話する活動を通して，自身の考えを見つめ，深めることができるようにする。

・防災ポーチに入れる小物について，「家族」「安全」「健康」「感染症」「その他」に分類しながら，自分の考えをもつ。また，日頃から使用できるかどうか考える。（使用できるものには○を打つ）
・仲間の考えを参考に，防災ポーチに入れる小物を再検討し，決定する。

教師の指導のポイント

・「家族」「安全」「健康」「感染症」「その他」の視点から防災ポーチに入れる小物を考えさせることで，効果的な交流につなげる。その際，ファイル共有システムを利用することで，多くの仲間と短時間で交流できるようにする。

１５　中学校　第１学年　特別の教科 道徳　【Ｃ】 12 社会参画，公共の精神

主題名「公共の精神とは」

教材名「本が泣いています」（東京書籍）

１　本時のねらい

・主人公の悩みをもとに，図書館が抱える問題を話し合う中で，公共の精神についての理解を深め，よりよい社会の実現に努めようとする意欲を育てる。

２　評価の視点

・公共のものや場所の利用について，一つの視点ではなく多面的・多角的に捉えて考えようとしている。

３　防災教育の充実に向けて

（１）防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	内容
防災教育を通して育成したい資質・能力	学びに向かう力・人間性等 防災に関する様々な課題に関心をもち，主体的に自他の安全な生活を実現しようとしたり，安全で安心な社会づくりに貢献しようとしたりする態度を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	道徳的価値に関わらせながら，被災地の避難所で靴がきちんとそろえられていたエピソードを聞き，公共のものや場所の利用について考える。

（２）他の教育活動との関連及び家庭や地域との連携

	内容
他の教育活動との関連	日常の集団生活で，みんながよりよい生活ができるように考え，公共のものや場所を利用する。
家庭や地域との連携	・震災当時の様子を家庭で聞いたり，防災の話を家庭で話題にしたりする。 ・地域の防災活動に参加する。

４　学習展開

過程	主な活動
導入	1　事前アンケートの結果から，主題について考える。 ○　公共の場やものにはどんなものが考えられるか。今まで，公共の場を利用したり，ものを使用したりしたときに「困ったこと」はないか。 ○　公共の場でマナーが守られなかったり，他の人に迷惑をかけたりする問題はなぜ起こるのだろう。
展開前段	2　教材を読んで，公共の精神について話し合う。 ○　本を守るための図書館側の取組をどう思うか。 ○　「本が泣いています」というメッセージには，岩井さんのどのような願いが込められているか。 ◎　制約なく自由に利用できる図書館にするためには，利用者はどのようにすることが大切だろうか。
展開後段	3　本時の学習を振り返り，学んだことや考えたことを記述する。
終末	4　被災地の避難所でのエピソードを聞いて，災害時において，公共のものや場所を利用するときには，どのようなことを心がけるべきかを考える。

特別の教科
道徳

「社会参画，公共の精神」の実践意欲を高める
避難所エピソードを活用した学習

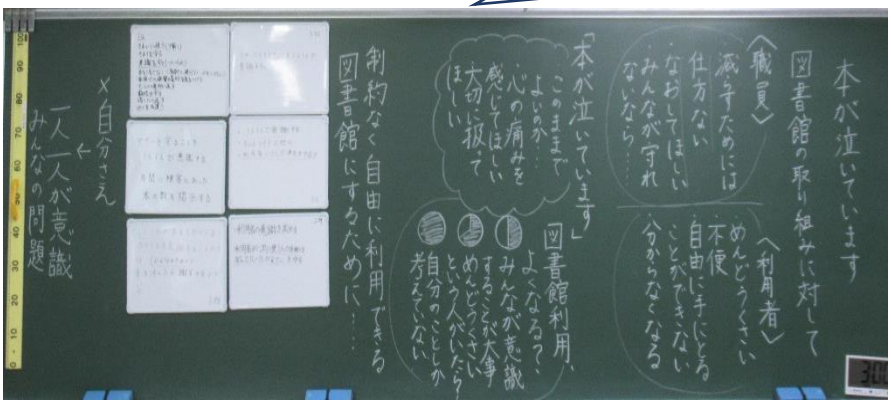
第１学年　主題名「公共の精神とは」
教材名「本が泣いています」（東京書籍）

こんな子どもたちの姿が生まれました！

・避難所におけるエピソードを聞くことで，公共の場所やものの利用について，より多面的・多角的に考えられるようになりました。

避難所エピソードの活用による効果

主人公は，心の痛みを感じてほしい，本を大切に扱ってほしいという思いで，図書館の取組を行いました。この取組によって，気を付けようと考えて行動する人も出てくると思います。全員が自分のこととして捉えないといけないと思います。



公共の場所なので，次に使う人のことを考えて行動することが大切だと思いました。図書館では本が汚れないようにすることや，公園ではゴミが落ちていたら拾うなど，環境を整えてみんなが楽しく安心して利用できるようにしたいです。そのために，自分ができることは積極的に行っていきたいです。

【東日本大震災のエピソード】
震災の直後，ある小学校の体育館が避難所となり，入り口付近には１００足以上の靴が常にきちんと並べられていたそうです。ぐちゃぐちゃになっている靴を見るだけでも，イライラしてけんかになるため，いつもそろえようとみんなで決めた約束でした。靴をそろえることは，心を整えることに通じています。整った環境では心が穏やかになり，逆の環境では心が乱暴になってしまいます。それは日常の生活でも災害時でも同じなのだと気付くことができました。

教材を通した学びに加えて，道徳的価値に関わる，東日本大震災での避難所のエピソードを聞くことで，より自己の生き方についての考えを深めることができるようにする。

・事前に東日本大震災の当時の状況を把握する。
・公共の場でマナーが守れなかったり，他の人に迷惑を掛けたりする問題はなぜ起こるのか考える。
・本を守るための図書館側の取組についてどう思うかを，利用者と職員の立場になって考える。
・「本が泣いています」というメッセージは，主人公のどのような願いが込められているか考える。
・制約なく自由に利用できる図書館にするためには，利用者はどのようにすることが大切であるか話し合う。
・道徳的価値について学んだことや感じたことを道徳ノートに書く。
・東日本大震災のエピソードを聞くことで，道徳的価値についてさらに深めることができるようにする。

＊東日本大震災のエピソードについては，本実践事例集２９頁「特別の教科 道徳 説話集（被災地でのエピソード）」の１２を授業者が紹介した。

教師の指導のポイント

・教材で学習した場面だけでなく，避難生活をおくる際など様々な場面で本時学んだ道徳的価値が生きることを実感できるようにする。
・命を守る訓練や地域の防災活動等において，道徳的価値とつなげた指導を意図的・計画的に行う。

１６　特別の教科　道徳　説話集（被災地でのエピソード）

このエピソードは，東日本大震災後，岐阜県から宮城県の学校に派遣された教員が，被災地で経験したことや見聞きしたことをまとめたものです。「特別の教科　道徳」での説話として使用できるように，エピソードの右側に内容項目を記載しました。また，「命を守る訓練」や「朝の会・帰りの会」などにおける教師の話としても活用することができます。

	エピソード	内容項目 小学校 中学校
1	東日本大震災後，避難所では冬の寒い中，電気も水もなく，食べ物も十分もらえない状況の中で生活していた。しばらくすると，避難所の人々は，精神的にもギリギリの状態で生活していたため，些細なことでトラブルが起こるようになった。そこで教員たちは，避難所に組織を作り，食料班，燃料班，衛生班，情報班など，避難所で暮らす人々に役割をもたせた。まとまりがなく，荒れる様相を見せていた避難所の中でみんなのために，一人一人が働くことで避難所の様子が様変わりした。誰かのために何かをすること，役割をもつことで居場所ができること，仲間意識が深まること，役割を果たすことで得られる達成感，必要とされる存在であることを実感することが前を向くエネルギーを生み出すのだと教えられた。 ＜南三陸町：小学校派遣教員Ａ，気仙沼市：小学校派遣教員Ｅ＞	【C】 14 勤労，公共の精神 【C】 12 社会参画，公共の精神 13 勤労
2	震災後４か月目に派遣された教員が，被災地の教職員住宅で生活をしながら，被災地の学校で働いた。その頃，この地域には週に３回ほど支援物資が届けられ，住宅の班長さんが，毎回ドアのところに支援物資を届けてくださっていた。派遣された教員は，支援に来ている立場で，被災された方々と同じように支援物資を受け取ることは申し訳ないと思い，班長さんに，「支援物資は受け取れません。」と伝えに行った。その際，班長さんは，「私たちを支援するために被災地に来てくださって，被災地で生活してくださっているのだから，私たちと同じです。」と言ってその後も支援物資を届けてくださった。その気持ちや気遣いが大変ありがたかった。 ＜南三陸町：小学校派遣教員Ａ＞	【B】 7 親切，思いやり 8 感謝 【B】 6 思いやり，感謝
3	ある６年生の男の子には，消防士の父親がいた。震災当日，消防士の父は，住民に避難を呼びかけるため，消防車で地域を巡回している際に津波に遭い，命を落とした。その子は学校では一切悲しい顔を見せず，Ｉ型糖尿病という病気がある児童を心配して，いつも保健室へ付いて来てくれていた。きっとつらい気持ちを抱えながら生活していたと思うが，そんな状況の中でも友達のことを心配できる思いやりのある子だった。 ＜南三陸町：小学校派遣教員Ａ＞	【B】 7 親切，思いやり 8 感謝 10 友情，信頼 【B】 6 思いやり，感謝 8 友情，信頼
4	家の中に引きこもっていたＦさん（若者）は，震災後，自分が生まれ育った町の惨状を目の当たりにして，「町の人たちのために何かをしたい。」という感情が込み上げてきた。そして，Ｆさんは友人とともにワゴン車を改造して移動販売を始めた。遠く離れたスーパーまで買い物に行かなければならなかったお年寄りたちにとって，近くで買い物ができるということは大変ありがたいことだった。Ｆさんは「町の人のために何かをする。」「町の人が喜んでくれることが自分の喜びである。」という生き方を見付けた。 ＜東松島市：小学校派遣教員Ｂ＞	【D】 22 よりよく生きる喜び 【D】 22 よりよく生きる喜び

5	食堂経営者のＧさんは，津波で壊されヘドロだらけになった自分の店を見て，絶望的な気持ちになり，生きる気力を無くした。しかし，震災から必死に立ち上がろうとしている人々の姿を見て，「今まで自分は自分のために仕事をしてきた。でも，これからは人のために生きよう。」と考え直し，それから生きる気力が湧いてきた。Ｇさんは，地元の食材を使った少しでも安いお弁当を作り，地元の人や復興支援に来た人たちに提供して喜ばれている。 ＜東松島市：小学校派遣教員Ｂ＞	【C】 14 勤労，公共の精神 【D】 22 よりよく生きる喜び 【C】 13 勤労 【D】 22 よりよく生きる喜び
6	備品の寄贈を受けた宮城県のある小学校の６年生の子が，岐阜県のある小学校に宛ててお礼の手紙を書いた。 ＜手紙の内容＞ みなさん，こんにちは。私は〇〇小学校の６年生です。ご存じの通り，私たちが今まで使っていた家庭科用品は，震災のために無くなったり汚れたりしていました。ですが，みなさんから新品の家庭科用品をいただき，私たちはとても嬉しい気持ちになりました。これから先，家庭科の授業などで使うときは，ありがたく，大切に使いたいと思います。この先，今度はみなさんが何か困っていたら，私たちが支援します。この恩返しです。この度は本当にありがとうございました。 ＜東松島市：小学校派遣教員Ｂ＞	【B】 7 親切，思いやり 8 感謝 【B】 6 思いやり，感謝
7	派遣教員が，災害ボランティアに参加し，民家の庭に溜まったヘドロを除去する作業をした。一番の重労働は，掻き出したヘドロを詰めた土嚢袋を運ぶ仕事だったが，若い男性３名がその役割を率先して引き受けた。彼らは，「ありがとうございます！」と言って土嚢袋を受け取り，指定された場所へ運ぶ。その仕事を派遣教員がやろうとすると，「私がやります。」と言って自分から重労働を引き受けた。そんな姿に触発されたせいか，その後ボランティア同士で「ありがとうございます。」という言葉が飛び交うようになった。全く知らない他人同士が，共通の目的に向かってお互いを気遣いながら作業を進めていく。知らない間に連帯感が生まれていた。 ＜東松島市：小学校派遣教員Ｂ＞	【B】 8 感謝 【C】 14 勤労，公共の精神 【B】 6 思いやり，感謝 【C】 12 社会参画，公共の精神 13 勤労
8	宮城県のある小学校では，震災で写真屋さんが被災し，機材もデータも水につかってしまった。卒業アルバムを子どもたちに渡すことができなくなり，写真屋さんは卒業式の時に保護者の前で土下座をして謝った。その後，その写真屋さんは，何が何でも子どもたちにアルバムを渡さなければならないと思い，写真屋仲間の力を借りて，東京まで行ってデータを復元した。また，中学生になった子どもたちを集めて集合写真を撮り，何とかアルバムを完成させた。このように「何としても子どもたちにアルバムを」という熱い思いと，仲間との絆の力でアルバムを完成させた。 ＜東松島市：小学校派遣教員Ｂ＞	【A】 2 正直，誠実 【C】 14 勤労，公共の精神 【A】 1 自主，自律，自由と責任 【C】 12 社会参画，公共の精神 13 勤労
9	震災１周年記念の作文　（小学６年生女子の作文） 私は，この１年間を通して思ったことが２つあります。 １つ目は，・・・（中略） ２つ目は，人とのつながりの大切さです。今年は，震災の影響で支援物資がたくさん送られてきました。そのほかにも，私たちと同じ小学生の人から，手紙も送られてきました。学芸会のときには，「ビデオ見せてもらいました。本番でも自信をもって頑張ってね。」という手紙を，Ｈ小学校（岐阜県）の人たちが送ってくれました。本番直前のドキドキしているときに校長先生が紹介してくださったので，「自信をもとう！」という気持ちになり，演じることができました。やはり，人とつながっているのはいいなと思いました。これらのことから，「人と人はつながっていると助け合いができる。」ということを学びました。このことは，震災を体験したからこそ，感じることができたことです。大変なことがあっても，そのあとに嬉しいことがあるということを忘れずに，これからも頑張っていきたいです。 ＜東松島市：小学校派遣教員Ｂ＞	【B】 10 友情，信頼 【D】 22 よりよく生きる喜び 【B】 8 友情，信頼 【D】 22 よりよく生きる喜び

10	２学期の始業式にて　児童代表の話（小学校５年生男子） 僕は，３月１１日に起きた東日本大震災の津波で家が壊れてしまったため，おじいさんの家に引っ越しました。そして，Ｉ小学校からこのＪ小学校に転校してきました。はじめは友達ができるかどうかとても不安でした。でも，みんな僕を受け入れてくれて，友達ができ，１学期は友達と楽しく過ごすことができました。とても嬉しかったです。 ２学期頑張りたいことは３つあります。 １つめは，・・・　２つめは，・・・(中略) ３つめは，友達をたくさん作ることです。僕は津波で友達を亡くし，とても悲しい思いをしました。一人でも多く友達を作り，大事にしていきたいです。そして２学期は，家や友達を亡くした悲しい経験に負けないように，そして成長していけるように，頑張っていきます。 ＜東松島市：小学校派遣教員Ｂ＞	【A】 5 希望と勇気，努力と強い意志 【B】 10 友情，信頼 【A】 4 希望と勇気，克己と強い意志 【B】 8 友情，信頼
11	派遣教員が勤める宮城県の小学校の全校児童に，高山市から「さるぼぼのキーホルダー」が贈られた。しばらくして，掃除の時間に６年生の女子児童が名札の横にさるぼぼの人形を付けていることに気付いた。「さるぼぼを付けてくれて嬉しいなあ。どうして，名札に付けようと思ったの？」と尋ねると，「私には震災直後に生まれた妹がいます。さるぼぼは，子どもを守る『お守り』の意味があると聞いたので，妹が元気に育つようにいつも身に付けることにしました。」と答えた。その言葉を聞いて，「なんて心の優しい子なんだ。」と胸が熱くなった。 ＜石巻市：小学校派遣教員Ｃ＞	【C】 15 家族愛，家庭生活の充実 【C】 14 家族愛，家庭生活の充実
12	「脱いだ靴はきちんとそろえましょう。」と日本中の学校で指導をする。しかし，「先生，どうして靴をそろえなければならないの？」と児童に尋ねられたら，どう説明するだろうか？ 震災直後，ある小学校の体育館は避難所となり，１００名近くが不便な生活をしていた。派遣教員が感心したことは，１００足以上の靴が常に入り口付近に整然と並べられていたことだ。まだ，余震が続く日々の中，靴を見ながら被災者の方に，「いつでも避難ができるように靴が並べてありますね。」と話しかけると，全く予想していなかった答えが返ってきた。 「いや違う。」「乱雑な靴を見るだけでもイライラしてケンカになる。」「だから，靴くらいはいつもそろえようとみんなで決めたんだ。」派遣教員は，その言葉を聞いて靴をそろえる指導の意味がやっと分かったような気がした。靴をそろえることは，心を整えることに通じ，整った環境では心が穏やかになり，逆の環境では心が乱暴になる。改めて整った環境で生活すること，子どもたちを育てることの大切さを学んだ。 ＜石巻市：小学校派遣教員Ｃ＞	【C】 14 勤労，公共の精神 【C】 12 社会参画，公共の精神 【C】 13 勤労
13	派遣教員が１０か月間の震災派遣の勤務を終え，３月末に岐阜に帰る際，アパートの荷物を引っ越し業者に預け，一晩だけ石巻市内に泊まり，翌朝，岐阜へ出発することにした。震災のあった年は多くの宿泊施設も被害に遭い，予約を取ることが困難な状況だった。そんな中，事情を話し，一軒だけ泊めてもらえた民宿があった。その民宿は，復興作業員の方々も泊まっており，狭い布団部屋だけ空いていた。夕食時に食堂には多くの人が集まっており，その日のメニューは赤飯だった。民宿の方に「ところで今日は何かお祝い事があったのでしょうか？」と尋ねると，民宿の方は「今日は先生が泊まられると聞いて赤飯を作りました。石巻の子どものために岐阜から来ていただきありがとうございました。何にもお礼ができないので，せめて赤飯をたくさん召し上がってください。」と話された。他のお客さんも大勢いる中で派遣教員のために赤飯を作ってくださり，その言葉を聞いたとたんに胸がいっぱいになった。 ＜石巻市：小学校派遣教員Ｃ＞	【B】 7 親切，思いやり 【B】 8 感謝 【B】 6 思いやり，感謝

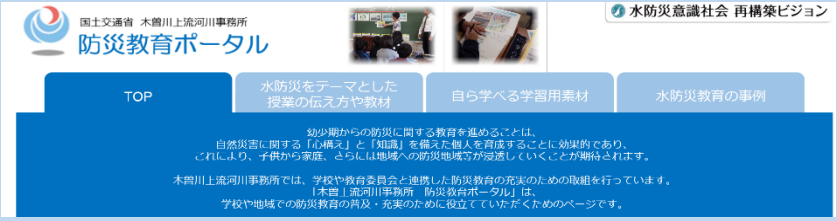
14	ある被災地の中学校の養護教諭は，自身も被災し，心身ともにとても辛い時期があった。その様子を感じてか，ある生徒がその先生の顔を見るといつも「先生，大丈夫か？」と声をかけてくれた。その生徒も家が流されて避難所での生活をしていたため，辛かっただろうと思うが，その生徒の優しさに救われた。 ＜気仙沼市：小学校派遣教員Ｄ＞	【B】 7 親切，思いやり 【B】 6 思いやり，感謝
15	派遣教員が派遣期間中にボランティアを行った。気仙沼市の商店街にあるお店の清掃だった。震災から４か月経過していたが，お店の中はまだ片付いていない状態だった。１日作業をしたが，すべてをやりきることはできなかった。帰り際，お店の方から「今まで何度災害があっても割れなかったものなのよ。みなさんのところに災害があっても守ってもらえるかもしれないから，今日のお礼にぜひもらってください。」とお猪口を一人一つずついただいた。片付けが全て終わったわけではなく，お店もいつ再開できるかと不安な状態だったと思うが，初めて会った私たちに本当に親切にしていただいた。 ＜気仙沼市：小学校派遣教員Ｄ＞	【B】 7 親切，思いやり 8 感謝 【B】 6 思いやり，感謝
16	「先生，私には二つの夢があるよ。一つはパティシエになること。もう一つは，私たちが大人になるまでに大谷の海を元に戻すこと。今度は私たちが頑張るの。」初めて会った派遣教員に，２年生のＫさんが話してくれた言葉だ。 「お店に出すケーキの種類を考えている。」と言って，ノートに沢山のイラストを描きながら「先生はどんなケーキが好き？」と尋ねてくれた。運動場には沢山の仮設住宅が建ち，遊ぶところはなかった。休み時間もずっと教室にいた。それでも子どもたちはみんな笑顔だった。各々が自分の夢を語り，それを聞いてくれる友達がいることに安心を覚え，過ごす様子はとても素敵な姿だった。ノートに「夢のお店の商品」を描くＫさんの周りで，頭を寄せてワイワイやっている子どもたちの姿が蘇る。子どもたちの心を癒すのは，何か特別なことではなく，日常の中にあるのだということを強く感じた。夢をもつことが，困難を乗り越える一助になること，夢をもつことが困難に押しつぶされない心の強さを生み出すことにつながるのではないかと感じた。各々の夢を楽しげに聞いている子どもたち。「〇〇さんの夢は〇〇なんだよ。」と，本人に代わって紹介してくれる姿。聞いてもらえるから聞ける。お互いを大切に思う気持ちは，何気ない姿に表れることを実感した。 夢があること，友達がいることを実感できる子どもたちを育てていかなければならないと痛感した。 ＜気仙沼市：小学校派遣教員Ｅ＞	【A】 5 希望と勇気，努力と強い意志 【D】 22 よりよく生きる喜び 【A】 4 希望と勇気，克己と強い意志 【D】 22 よりよく生きる喜び
17	Ｋさんのもう一つの夢「私たちが大人になるまでに大谷の海を元に戻すこと。今度は，私たちが頑張るの。」　海は，子どもたちにも辛い思いや悲しい思いをさせた。それでも「大谷の海が好き。」と言える子どもたち。自分たちのふるさとを大切にしてきたからこその言葉，ふるさとに誇りをもっているからこその言葉なのだと思った。「大谷の海はとてもきれいで，校舎の２階や３階に上がると海が見える。凄くきれいな海だよ。」「大谷海岸を全校のみんなで，毎年きれいにしていたよ。」「ワカメを取りに海に出かけたよ。ワカメを販売したよ。今年も計画していたけど震災でできなくなった。」「海を守るための踊り（舞）と太鼓があって，２年生は一所懸命練習している。文化祭で発表会するよ。」等々。大谷の町が大好きで，海を誇りに思い，自分たちの手で大切に守ってきたという思いが子どもたちの心に，言葉に溢れていた。子どもたちが震災後の大谷の町を見て，大谷のことを嫌いになってしまわないか心配でならなかったと話す保護者もいた。しかし，「今度は私たちが頑張るの。」の言葉に込められた「ふるさと大谷」を思う気持ち。その思いは揺らぐことなく，子どもたちの中で前にも増して大きく強くなっているのだと感じた。自分の住む「ふるさと」を，ここまで大切に思える子どもたちが，未来を変えていってくれるのだと思う。 ＜気仙沼市：小学校派遣教員Ｅ＞	【C】 17 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 【C】 16 郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度

18	ある中学校では「ふゆみず田んぼ」という活動が伝統になっていた。収穫の時には，小学校，幼稚園の子どもたちも一緒に収穫作業を行っていた。震災後，今年は田んぼを作ることはできないと，職員はみんな諦めていた。そんな中，３年生の生徒が「今年も田んぼを作りたい。」と校長先生に直接願い出た。生徒の強い気持ちを受け，田んぼ作りに向けて全校が動き出した。生徒の気持ちを知り大勢のボランティアや地域の人が，瓦礫の撤去に入ってくださった。震災からわずか３か月後。田んぼ以外はまだまだ瓦礫が残る中「ふゆみず田んぼ」には，水が張られ，稲が植えられた。諦めることはとても簡単。でも，諦めないことを選んだ子どもたち。続けてきた伝統を繋ぎたいという思いと行動。「ふゆみず田んぼ」を作ることで日常を取り戻すこと。できないことを挙げるより，どうやったらできるか考える子どもたちの姿があり，それを応援し一緒に考えられる先生たちだった。伝統を継続していく，伝統をつないでいく。様々な学校で行っている。「私たちは何を思い，考え，つないでいくのか」そこがぶれない子どもたちによって，新たな伝統が作られ継承されていくのだと教えられた。収穫の時の子どもたちの表情や振る舞いは，達成感にあふれていて，今も忘れられない。 ＜気仙沼市：小学校派遣教員Ｅ＞	【A】 5 希望と勇気，努力と強い意志 【C】 17 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 【A】 4 希望と勇気，克己と強い意志 【C】 16 郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度
19	被災により生活が一変してしまった生徒の中には，進学を諦め就職する生徒もいた。仕方なく「就職」するのではなく，納得し受け入れている生徒が多かったように思う。覚悟し受け入れるまでには，様々な悩みや葛藤があったと思う。各々の事情を知った上で一緒に過ごし，ともに悩み考えてくれる仲間の存在と，一緒に過ごす時間が，決断の過程に沢山あったと思う。どのような時間を過ごしてそこに至ったのか，私には及びもつかないが，仲間の存在があったからこその覚悟や納得であったことは想像できる。そしていつもそれを見守り，何度も話し合う先生方の姿もあった。この生徒たちは「ふゆみず田んぼ」を諦めなかった生徒たちだ。 ＜気仙沼市：小学校派遣教員Ｅ＞	【A】 5 希望と勇気，努力と強い意志 【B】 10 友情，信頼 【A】 4 希望と勇気，克己と強い意志 【B】 8 友情・信頼
20	２年生の子どもたちと「心が風邪をひいてしまって，元気がないドラえもんを助けてあげるにはどうするとよいか」について考えた。（このクラスは震災でお子さんが亡くなっている。） 「好きなことをするとよい」「運動する」「早く寝る」など，ストレス解消法と言われていることを発表する中，一人の男子児童が「猫を沢山連れてくる」と発表した。「ドラえもんは猫だから，元気がないなら猫の友達を沢山連れてきてあげたら嬉しくなって元気が出る」ということだった。聞いていた子どもたちは「それがいい！」と大賛成。友達がいること，学級の仲間とのつながりを実感できている子どもたちならではの発言だと感じた。子どもたちは仲間が自分の力になってくれることを十分に理解している。大人には思いつかないようなことを感じたり考えたりしている。子どもは大人が思っているよりも「優しく」そして「強い」。 ＜気仙沼市：小学校派遣教員Ｅ＞	【B】 10 友情，信頼 【B】 8 友情，信頼
21	「〇〇先生，おはようございます」と名前を呼んで挨拶してもらえるだけで，ここに自分の居場所があるという気持ちになった。これまで，名前を呼んで挨拶することは当たり前の事で，何か特別なことという意識はなかったが，自分が体験してみて，名前を呼ぶことで，「あなた」という人を受け入れているよというメッセージが伝わる。認められることが，エネルギーになることを実感し，「相手を思いやること」を改めて考え直すことになった。 本当に相手のことを大切に思う，大切に思っている気持ちを伝える方法はとても簡単なこと，一方で簡単すぎてとても難しいことなのかもしれないと思う。なぜ難しいのか。そこを考えないといけないと感じた。 ＜気仙沼市：小学校派遣教員Ｅ＞	【B】 7 親切，思いやり 【B】 6 思いやり，感謝

22	仕事が終わり職員室を出ようとすると，決まって一人の先生が「〇〇先生，車に乗ったらまずラジオをつけてね。ラジオじゃないと地震の情報も津波の情報も入らないからね。気を付けて帰ってね。」と声をかけてくれた。ご自身も被災され避難生活を続けられていたが，自分のことより，岐阜から来て地域に慣れていない私を気遣ってくださっていることが伝わり，とても嬉しかったことを覚えている。かけられる言葉の一つ一つに，私を思う心を，さりげない言葉にいつもその先生の思いを感じた。 先生方，子どもたちと生活する中で「相手を思いやる」ことを体験する，考える機会がとても多かった気がする。これまでの日々の生活と何が異なるのか，見逃していたことに再度目を向けさせてもらった機会だった。 ＜気仙沼市：小学校派遣教員Ｅ＞	【B】 7 親切，思いやり 【B】 6 思いやり，感謝

17　参考資料

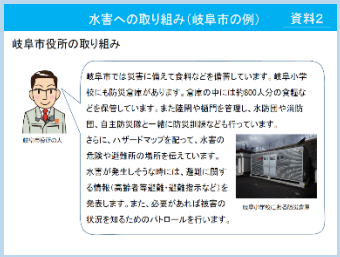
【国土交通省木曽川上流河川事務所】防災教育ポータル	https://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/portal_bousai/index.html



・このサイトには，主に水防災についての情報が掲載されています。
・「水防災をテーマとした授業の伝え方や教材」「自ら学べる学習用素材」「水防災教育の事例」から目的にあった情報を収集することができます。

「水防災をテーマとした授業の伝え方や教材」

映像資料「9.12 豪雨災害の報告」
元安八町長　丹羽正治氏（令和2年10月）



提示資料「災害を防ぐ地域の取組」

・水防災に関わって，「過去の自然災害」「災害を防ぐ地域の取組（共助）」「災害を防ぐ行政の取組（公助）」「私たちにできること（自助）」の４種類のテーマの教材が紹介されています。
・「発問計画」，「板書計画」，「提示資料」，「ワークシート」など，授業で活用可能な情報を収集することができます。

「自ら学べる学習用素材」

映像資料「マイ・タイムライン」

「マイ・タイムライン作成シート」

・マイ・タイムライン作成用資料，防災学習用教材・素材等のリンク集が紹介されています。
※マイ・タイムラインは，住民一人ひとりのタイムラインであり，台風の接近によって河川の水位が上昇する時に，自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し，とりまとめるものです。
（出典：国土交通省　関東地方整備局　下館河川事務所）

「水防災教育の事例」

令和２年度　大垣市立青墓小学校の実践

令和元年度　岐阜市立岐阜小学校の実践

・防災教育ポータルで紹介されている教材等を使用した実践事例が紹介されています。

【過去の実践校】
大垣市立青墓小学校
岐阜市立則武小学校
輪之内町立福東小学校
輪之内町立大藪小学校
安八町立結小学校
岐阜市立岐阜小学校　等

防災教育実践事例集　作成協力者

岐阜県防災教育強化チーム委員

・小山　真紀　　岐阜大学流域圏科学研究センター　准教授
・猪俣　哲夫　　郡上市立大和西小学校　校長
・松井　健治　　下呂市立馬瀬小学校　校長
・吉田美恵子　　御嵩町立上之郷中学校　教頭
・石田　幸子　　岐阜市立徹明さくら小学校　教諭
・小西　香織　　岐阜市立早田小学校　教諭
・今井　良昌　　岐阜市立加納中学校　教諭
・林　万由佳　　岐阜市立厚見中学校　教諭
・川﨑洋梨子　　羽島市立堀津小学校　養護教諭
・本間　祐一　　各務原市立那加第二小学校　教諭
・茨　　勇作　　瑞穂市立巣南中学校　教諭
・羽田野利恵　　岐南町立岐南中学校　教諭
・杉野　　翼　　大垣市立興文小学校　教諭
・日比　　薫　　垂井町立宮代小学校　養護教諭
・松浦　亮太　　揖斐川町立揖斐川中学校　教諭
・纐纈　雅守　　可児市立旭小学校　教諭
・髙木　良太　　土岐市立濃南小学校　教諭
（＊所属は事例集作成当時のもの）

この他，本資料の編集全般にわたり，岐阜県教育委員会学校支援課指導主事及び各教育事務所指導主事が担当した。